

琉球群島に於ける古賀氏の功績

(其五)

▲技術上の設計 古賀氏の実開列島に對する移民計畫が良好なる結果を見るに從ひ第一の計畫として貨物の運搬貨物の揚卸等に關する海陸の不便と危険とを排除せん爲め自然列島に技術上の設計を加へて事業の將來を開展せしむべき必要あるを以て氏は遂に明治三十三年上京して東京帝國大學教授理事博士其作住吉 一 事情を陳して其の考案を頌はしたるに博士は氏が此の企圖に多大の同情を寄せ理事士宮島幹之助氏を推挙したるを以て茲に氏は同島に對する技術上の設計を之に一任する事とし尙當時本縣師範學校教諭黒岩恒氏にも商量 して其の出張を乞ひ同年五月相携へて汽船永康丸(大阪商船會社所有船噸百六十噸)に乗じて久場島に赴き斯くて同氏の指導の下に同地に大路左の如く設計を定めたり

一 魚類魚介の濫獲を戒め禁捕法を講じ種族断絶の憂なからしむること

二 家屋を建て移住者の安息を圖ること

三 久場島には河泉の依るべきもの無きが故に天水貯槽を設くること

四 船着の安全と海陸運搬の利便を圖る爲め碇泊所を築くこと

五 道路を開鑿し兼ねて汚穢物排除の方法其の他衛生的設備を講ずること

▲右設計の遂行困難 右の設計を遂行せんが爲めに水精煉設用として練瓦セメント及び小港灣を築かん爲め附近海陸の岩礁を破碎するに用ふる工業用爆裂藥等其他の材料を内地より購求し來り非常なる困難と危険とを以て之を陸揚したる工事を施すに當りて思がけなき多くの障害に際會し設計を變更し位置を轉移する等屢々なりしが故に其の都度同種なる艱難を繰返し再び材料を輸入し設計を新にせざるべからざる有様に遭遇し工事意の如く進捗せず運々として今尚ほ竣工に至らず

▲再び新設計を案す 斯くて工事の次第に進捗すると同時に明治三十四年五月借入船仁壽丸(四百六十噸)を送還するに當り本縣技師熊倉工學士の出張を乞ひ共に同列島に航行し同年八月まで滞在し諸般の改善を計畫して更に海島の弊及び難兒の風浪に略奪せらるゝを擁護し且つ家屋漁船の安全を圖る爲めに海岸の要所に防波堤を築くことに決し種々故障の爲め幾名の費用と勢力とを浪費して茲に其の竣工を見るに至れり